



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

リエぞん

Liaison

vol.51

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和4年10月

医療関係者の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

令和4年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める

晴れた日の 薬師寺と大池と秋桜と



写真提供 永田 清

Contents

- | | | | |
|------------------------|---|-----------------------|----|
| ● 優しさと笑顔あふれる看護部をめざして | 2 | ● 第64回近畿地区国立病院看護学会で | |
| ● DST(認知症サポートチーム)の活動報告 | 3 | ポスター賞を受賞しました | 8 |
| ● 部門紹介-企画課(医事) | 6 | ● あたらしい売店 | 9 |
| | | ● 連携施設のご紹介コーナー VOL.13 | 10 |



優しさ と 笑顔があふれる 看護部をめざして

看護部長 安達ひとみ

はじめまして、看護部長の安達ひとみです。わたしは、この4月に看護部長としてこちらの奈良医療センターに着任しました。毎日、京都から車で1時間半かけて通勤しています。病院の近くになると、唐招提寺、次には薬師寺の三重の塔が見えてきます。その風景は、古都、奈良の地

万葉のロマンを感じるものがあります。そして、魅力的な観光地・パワースポットを浴びながら心癒され、気持ちの良い朝を迎えながら病院に到着します。それは、私の気持ちを奮い立たせてくれています（笑）。そして、とてもいい環境のもと看護をさせて頂いていることに日々感謝しています。

看護という仕事は、患者さんの人生に深く関わり、人間の身体的、精神的弱さや脆さに向き合う仕事です。しかし、それと同時に人間の持つ強さや、果てしない可能性、素晴らしさ、尊さにも触れられる奥深い意義を持った仕事だと思います。また、看護師である自分自身の価値観や生き方を、看護を通して深く見つめ直す機会が得られる仕事だと思います。そして、看護師は病院のあらゆる部門、すべての職種と協働、連携をしている唯一の存在だと思います。なぜなら看護師は、その人らしく生きることを支援する役割があるからです。その人の問題に応じて、病院内の各専門家が専門的な介入をすることに対して、必要な介助や支援、調整などを継続的に行っています。患者さんを健康問題という側面だけではなく、社会で生活されている人として深く理解することができてこそ、この役割が果たせると考えています。しかし、多くの患者さんに対応していく中で、多様な個性を認め、その人らしさを大切にすることというのは、時に大変な困難を伴うこともあります。迷いや混乱の中、医療者として看護師として何をすべきかを判断する際の拠り所は、人を尊重し、その人にとっての最善を考える倫理観だと思います。その倫理観を一人ひとりがしっかりともち育成できるようにしたいと考えています。

当院の看護部は、看護を必要としている人々に対し、個人の尊厳と人権を尊重し、専門的知識と技術を用い、「その人らしく生きる力」を引き出しながら、可能性を広げる看護をめざしています。そして、チーム医療のキーパーソンとして、他職種や地域との連携を密にしながら、地域包括ケアシステムの推進に向けて貢献していきたいと考えています。看護チームにおいては、それぞれの職種に応じた役割と責任を果たすための体制整備に努めています。教育については、新人看護職員はもちろん、中堅看護師・ベテラン看護師、看護補助者、看護管理者など、すべての看護職員が自己の役割を認識し成長していける体制づくりに努めています。

どんな困難な状況でも、最善の看護を目指すそのためには、技術の習得はもちろん大切です。しかしながら、信頼される看護を提供するには、働く仲間同士のチームワーク、思いやりが大切であり、人としての豊かな人間性を養うことが技術以上に必要であると考えます。生き生きと楽しそうに働く人がいると、周りにも良い影響を与えてくれます。そして、明るく、笑顔で働く看護職員がたくさんいることは病院の宝、専門職としてのプライドを胸に、しっかりと「個」として輝いてほしい❖と願っています!!

最後に、看護職員一人ひとりが奈良医療センターの顔であるという自覚を持ち、「優しさ と 笑顔があふれる 看護部」をモットーに日々頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



DST(認知症サポートチーム)の活動報告



急激な高齢化に伴い、認知症を発症する数は今後ますます増加していくことが予測されます。認知症の方が入院されると、過剰なほどの刺激が多い入院環境の中、病気による身体不調を感じつつ慣れない治療を受けなければなりません。そのため、日頃できていたことも上手くいかず不安になり、さらに環境の変化から混乱してしまう方が多くおられます。認知症ケアにおいて、認知症の人が抱える身体の苦痛や心のつらさを理解し、それぞれの人のにとって安全な入院環境を整え、安心して治療が受けられるよう支援することが必要になります。

DST(認知症ケアサポートチーム)は、Dementia care Support Teamの頭文字をとってDSTと呼んでいます。当院では、昨年の7月よりDSTチームが発足し活動を行っています。認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さにより、身体疾患の治療が円滑に進まないことが見込まれる患者さんに対し、認知症の悪化を予防し、本人の意思を尊重しつつ身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的として活動する多職種で構成されたチームです。

DST構成メンバーの紹介

職種	人数	支援内容
神経内科医長	1	治療・看護ケアに関して医学的な助言・提案を行う
認知症看護認定看護師	2	看護ケアについての助言・提案、患者さん及びご家族への相談対応を行う
社会福祉士	1	退院支援に関する助言・提案・調整を行う
言語聴覚士	1	認知症ケアに関してリハビリテーションの立場から助言・提案を行う
管理栄養士	1	認知症ケアに関して栄養士の立場から助言・提案を行う
ユマニチュードインストラクター	2	コミュニケーション技術に関して助言・提案を行う
各病棟・外来リンクナース	7	認知症ケアについて認知症看護認定看護師と協働しながら病棟の看護の質向上を目指す



DSTメンバー

DSTの主な活動内容

◆せん妄・認知症に関する研修会

せん妄・認知症ケアの質向上を目指すため職員対象の研修会を行っています。

◆病棟ラウンド、回診カンファレンス

週1回以上対象者のラウンド、およびカンファレンスにて、病棟における認知症・せん妄ケアの実地状況を把握し看護ケア・薬剤調整、意思決定支援等について助言・提案を行っています。



◆病棟ディケアの開催（コロナ感染拡大中は中止）

月2回程度、季節に合わせた制作や歌などのレクリエーションを開催しています。同年代の方と関わることで入院生活に早期になじめることや、入院中の生活リズムの改善を期待し行っています。病棟ディケアに参加した患者さんからは、“久しぶりに他の方とお話しできて楽しかった”、“次はいつあるの？”と前向きな言葉が聞かれています。院内スタッフからは、“普段見たことのないような患者さんの笑顔や動きが見られた”との声が聞かれています。



<認知症のある高齢患者の意思決定を支援できる関りを 目指し多職種連携した事例紹介>

入院当初、夜間せん妄・昼夜逆転等の症状があり、DST（以下チーム）が介入しました。疾患の進行により誤嚥性肺炎となり、内服のため経鼻カテーテルが挿入されました。認知機能の低下、意識レベルの変動も大きく、覚醒されている時間は日に日に短くなり、言葉も1語発することが精一杯の状況でした。

チームが介入する中で、今後の方針について「本人は今後どうしたいのだろう」という話が話題にあがりました。食事の再開は望めず、このまま経鼻カテーテルを選択するのか、胃瘻を造設するのか、何もせず自然な形で最期をむかえるのか、選択に迫られていました。家族の思いは「本人の意志を尊重します。苦しめない楽な人生を選択してあげたい」ということでした。チームと病棟スタッフ、多職種（リハビリ科、栄養科、薬剤科）で倫理カンファレンスを行い、認知機能の評価、説明と同意の方法、本人の意思をどのようにくみ取ればいいのか、生活史や価値観など今までの言葉や表情から推測し、本人にとっての「最善」を話し合いました。意思を確認する方法として本人が分かりやすい方法を検討し、胃瘻の写真やイラストを用いて（写真参照）病状や今後の選択肢について繰り返し説明しました。意識レベルの変動から覚醒している短い時間をみてタイムリーに介入できるよう多職種で連携を取り、本人から得られた表情や言葉を共有しました。胃瘻についての写真をみせると「あーあー」と何かを訴えたい様子があったり、写真をずっと見つめ迷っている表情も読み取れました。

その後、本人と家族、医療者で話し合う場を設け、家族には私たちが確認できた本人の意思を伝えました。その上で、家族から本人に対し「胃瘻はどうする？そのための検査もする？」と確認されると、本人から「します！！大丈夫。がんばります！」としっかりした言葉を聞くことができました。そして家族の顔を見て、涙されました。チームを中心に多職種で関わったことが、本人の意思決定を支援することに繋がったと感じる事例でした。



近年、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）という言葉をよく耳にします。本人にとっての最善とは何か。本人・家族・医療者が、本人がどのように生き、どのような最期をむかえたいかを共に考え支援することが医療現場に求められています。まだまだパターンリズムという考えも根深く残っています。認知症のある方では、家族の意思が先行してしまうこともあります。私たちDSTは、認知症のある方が、日々意思決定しながら尊厳をもって生き、その人らしい人生を歩み終えることを支援していきたいと思います。

部門紹介

専門職 東原 直輝

企画課（医事）

企画課（医事）では、外来診療や入院の受付、医療費の会計、そして保険請求業務など様々な業務を行っています。

今回は、企画課（医事）が行っている様々な業務について紹介させていただきます。

【入院係】

入院係では、入退院の手続きや入院診療費の請求を行っています。

入院費用は外来費用よりも医療費が高額になる可能性も多く、一人一人の患者様に対する高額療養費制度の説明案内も重要になります。

入院から退院まで患者様・患者様家族に寄り添って案内をし、患者様が安心して過ごすためのサポート役を担っています。

【外来係】

外来係では、初診患者の受付・保険証の確認・外来診療費の請求等を行っています。

当院では、保険証の代わりにマイナンバーカードを利用することも可能となっております。

スタッフ一丸となって患者様一人ひとりに寄り添った丁寧な診察が行えるよう日々コミュニケーションを大事に業務にあたっています。

【文書係】

文書係では、患者さんから作成依頼があった診断書、証明書等を取り扱っています。担当医師に作成依頼を行い、スムーズに患者さんにお渡し出来るようお手伝いしています。作成までに多少お時間をいただいておりますが、出来るだけ早くお渡し出来るよう努めています。

【診療情報管理室】

診療情報管理室では、患者さんの診療情報の記載された診療記録（カルテ）の管理業務の他、院内の様々な実績データを取り扱っております。また、近年では、国の方針により患者情報の詳細な部分までデータ化が求められており、各部署と連携しながら業務を行っております。診療情報の開示手続きに関しまして、1階総合受付にて受け付けております。

患者さんが来院した際、最初にお会いするところが企画課（医事）となります。

来院された方が抱えている病気などの不安を少しでも和らげ、より良い信頼関係を保てるよう、笑顔で、親切丁寧な接遇を行うように心がけています。

平日午前中は、1階総合受付前にコンシェルジュを1名配置しておりますので、お困りのことがあれば、気軽にお声がけ下さい。



第64回近畿地区 国立病院看護学会で ポスター賞を受賞しました

南病棟より、看護研究テーマ「COVID-19入院患者におけるせん妄発症リスク因子」を発表し、中島礼以佳看護師がポスター賞を受賞しました。

コロナ患者におけるせん妄発症のリスク因子は他の疾患とおなじことがわかりましたが、隔離のストレスや施設クラスターなどで高齢者が多いことなどが関連し、よりせん妄を発症しやすい状態となっているのではないかと考えられました。せん妄は早期からの予防ケアが大切ですので、研究結果を深めコロナ患者様の看護に活かしていきます。



あたらしい 売店

旧食堂あとに
新売店ができました！

オリジナル弁当あります
キャッシュレス決済対応

お待ちしております



カフェ アンド ショップ[®] コクリエ

営業：月～金 8：30～16：00

休日：土日祝日 ※正面玄関、自販機コーナーの
食品自販機もご利用ください。



なないろクリニック

池島 英之 院長

当院は、2015年に奈良市中山町西で開院しました。在宅療養支援診療所として、在宅医療に特化して、診療しております。日本在宅医療連合学会認定在宅医療専門医を有するクリニックとして、これまで多数の患者さんの医療面・介護面・生活面でのサポートを地域の方々と進めて参りましたが、在宅医療ニーズは増える一方です。地域の在宅医療のニーズに応えられるように、同中山町西内に2023年4月にクリニックを移転し、診療体制の整備、拡大を行います。地域で在宅主治医を探しておられる方々の最善の支えになれるように診療体制を整えて参ります。



〈移転後イメージ〉

患者さん、ご家族さんとの良い出会いとなるよう、また、奈良の地に『なないろクリニック』があって良かったと思っただけのクリニックであり続けるよう日々精進し、診療していきます。「在宅医療なら“なないろクリニック”！」と言っただけならば、すべてがうまくいく、そんな診療をしていこうと思っています。

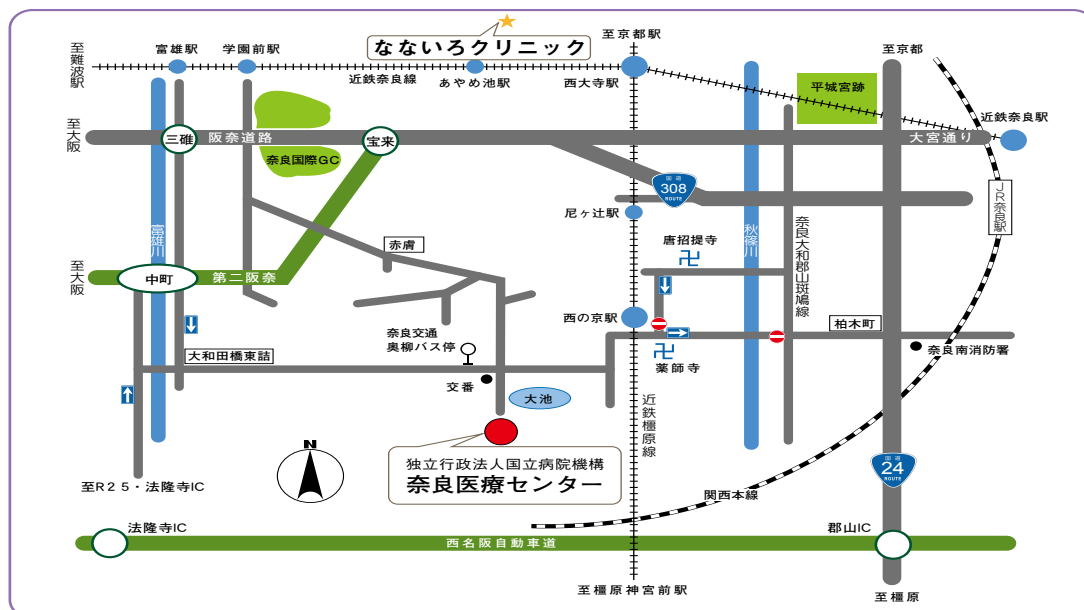
どうぞよろしくお願いいたします。

診療科目：内科、循環器科、訪問診療

診療時間：月～金 午前9：00～12：00 午後14：00～17：00

休 診 日：土・日・祝日（在宅かかりつけ患者さんへの往診は随時行います）

T E L：0742-52-0716



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
奈良市七条2丁目789
TEL.0742-45-4591（代表）
TEL.0742-45-1563（直通）
FAX.0742-45-4901（直通）